

令和3年度 南国市立大湊小学校 学校評価書

校長 山崎 雅史 印

学校教育目標		人間性豊かにたくましく生きる大湊の子の育成		研究主題	「表現力の向上をめざして」～言語活動の充実を重視した授業づくり～	
大項目	中項目	評価指標	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価
学力向上	(1)規範意識の育成	①大湊シートの「ルール」や「きまり」についての項目で、肯定的評価80%以上。 ②保護者「学校評価アンケート」の「社会のルールやきまりを守る指導」の項目で肯定的評価90%以上。	①「ルール」や「きまり」に関する肯定的評価は、6月期90.3%、12月期89.0%と評価指数を達成できた。特に、あふない遊びをしないや集会などで人の話を聞くなどが良くできていた。②保護者アンケートの肯定的評価は92.9%で、保護者アンケートでも評価指数を達成できているところが歩くことや身の回りの整理に課題があるので、今後指導の重点としていきたい。	A	大半の児童は、ルールやきまりを守る意識が育っているが、登下校の交通ルールを十分守れない児童がいる状況である。今後も地域と連携し児童の安全管理の取組を進めると同時に児童のきまりを守る意識の醸成を図って行きたい。また、家庭状況に差がある児童も在籍しており、関係機関と連携して児童の支援や規範意識の醸成を図って行きたい。	○ルールや決まりについての項目は全体で約90%と良好である。これらも児童の規範意識の向上に向け、取り組んでほしい。特に、集会などの聞き方は100%であり、規範意識の育成ができてきている。児童の良しなところをお互いに認めながら、身の回りの整理整頓などに取り組んでほしい。
	(2)授業改善	大湊シートの「授業」について、次の項目で肯定的評価90%以上 ①授業中、先生や友だちの話をしっかり聞いている。 ②自分の思いや考えを発表している。 ③授業は分かりやすい	①「授業中、話をしっかり聞いている」の肯定的評価は、6月期、12月期とも100%と評価指数を達成。大半の児童が授業中しっかり集中できている。②「自分の思いや考えを発表している」の肯定的評価は、6月期89.7%、12月期86.2%で評価指数を達成できておらず、研究主題に沿った授業づくりを進めてきたが課題が残った③「授業が分かりやすい」の肯定的評価は、6月期100%、12月期96.6%で目標指数を達成できている。各学級とも特別な支援を必要としない児童が在籍しており、個別の支援を充実していくことが課題となる。	B	今年度授業改善の視点として、「自分の考えや思いを発表する場の設定」「言語活動の充実をめざす工夫」を掲げ取り組んできたが、自分の考えを表現することに自信のない児童へは、一層の個別支援を充実させていく必要がある。複式学級における、授業のスタンダードを定着させながら、児童が主体的に表現できる場面を、意図的に授業の中に位置づける取組を今後も進めていきたい。	○授業中先生や友だちの話を聞くは100%、分かりやすい授業では、72%とやや低い。特に、課題が理解できた後、次につながる目標などを提示しながら、学習に対する意欲を持たせることがよいのではないと思う。
	(3)家庭学習	①帯タイムや放課後加力指導の継続。 ②生活習慣しらすら、年間5回以上実施。 ③保護者アンケートの家庭学習に関する肯定的評価80%以上	①放課後学習支援員や地域協働本部事業により外部の方の支援を得ながら、個に応じた加力指導を行うことができた。②生活習慣しらすらは定期的な取組として定着し、家庭での児童の生活習慣を定着させたための、保護者への啓発となっている。早寝の項目の課題が克服できていない③保護者アンケートの家庭学習についての肯定的評価は71.4%で昨年から10ポイント低下しており、課題となっている。	B	帯タイムや放課後加力指導は継続的に実施できており、児童も意欲的に取り組んでいる。しかし、そのことが家庭学習の定着に結びついておらず、今後、個に応じた課題設定等により家庭学習の習慣化を図って行きたい。また、メディアの上手な付き合い方の指導を強化し、早寝の項目での課題改善も図って行きたい。	○児童一人ひとりの学力向上に向け、帯タイム学習や放課後の加力指導、また生活習慣調べも児童が自分の生活・学習を振り返ることができ、継続してほしい。保護者においても家庭学習の取り組みが71%の結果であることから、今後児童の生活習慣もめぐる家庭との連携を深めてほしい。
	(4)英語教育の推進	1. 大湊シートの「英語」について、次の項目で肯定的評価90%以上 ①英語がすき ②英語は大切だと思う ③英語をもっと話せるようになりたいと思う。	①「英語がすき」の肯定的評価は、6月期93.1%、12月期89.7%。②「英語は大切だと思う」の肯定的評価は6月期89.7%、12月期96.6%。③「英語をもっと話せるようになりたいと思う」の肯定的評価は6月期93.1%、12月期91.1%と、ほぼ評価指数を達成できた。ただ、「将来英語を使う仕事をしたいが。」を問う項目には大きな落ち込みが見られる。	B	昨年度より、各項目とも大きく改善しており、英語に対する意欲の高まりがみられた。しかし、将来の職業に英語を活かしたいという思いに対して、否定的な意見を持つ児童の割合は、一定数存在しており、英語と自分の社会とのつながりを十分実感できていないという課題がある。今後、英語を日常的に使う場面をより一層増やす、自分とのつながりを一層実感させたい。	○英語は大切だ項目では97%、英語で話しかけられたり英語やジェスチャーで答えよう90%と高く、英語学習に対する児童の意識が育まれていることが分かる。学校行事などで英語が生かせる内容や外国の人々と交流できるような機会(国際交流)を積極的に取り入れていき、中学校につなげてもらいたい。
生徒指導	(1)道徳教育の推進	1. 大湊シートの「あいさつ」「掃除」について、次の項目で肯定的評価90%以上。 ①自分からあいさつをしている ②掃除をまじめにしている ③「教室」や「ろうか」などにゴミが落ちていたらひろうようにしている。	①「自分からあいさつをしている」の肯定的評価は、6月期89.7%、12月期96.6%、②「掃除をまじめにしている」の肯定的評価、6月期100%、12月期96.6%で目標指数を達成。③「ゴミをひろう」の項目は6月期93.1%、12月期89.7%とほぼ目標指数を達成している。どの項目も、昨年度より肯定的評価が向上しており、道徳的価値観の醸成が図られている。一部ではあるが、やや消極的な意見もあるので、学級での指導を継続して行っている。	A	「あいさつ」「掃除」に関しては、道徳的価値観の醸成のための基本的な取組として今後も継続していく。特に、集会での評価活動が大切にして、主体的におこなうという態度を大切にしたい。ゴミが落ちていたら積極的にひろうことができる児童の育成のため、日常的に教室の環境美化への意欲付けを行っている。	○挨拶、掃除の項目では、特に家族や地域の人への挨拶では100%となっており、取り組みの成果が出ている。集会等において、道徳的価値観を育てていくために、こみなど見つけたら拾うなど日常的で自主的な行動を奨めていき、全校児童の意識をさらに高めてほしい。
	(2)いじめ・不登校・問題行動等への対応	1. 大湊シートの「いじめ」防止について、次の項目で肯定的評価90%以上 ①学校や学級の中にいじめはない。 ②自分は人をいじめることはない。 2. 保護者「学校評価アンケート」の「いじめのない学校づくり」の項目で肯定的評価90%以上 3. いじめ防止推進委員会を毎週木曜日に開催し、全教職員での情報共有を徹底する。	1.①「学校や学級の中にいじめはない。」の肯定的評価6月期86.2%、12月期93.1%、②「自分は人をいじめることはない。」の肯定的評価6月期89.7%、12月期93.1%、どちらとも向上している。二学期に行事への取組等を通して、学級づくりが進んだ成果だと言える。2.保護者アンケートの「いじめのない学校づくり」の項目で96.4%の肯定的評価があり学校の取組に対して一定の理解を頂いた。3.いじめ防止委員会は、月ごとの定例会以外にも、トラブルが起こった際には必ず開催し、全教職員での情報共有を徹底している。	A	「いじめの防止」については、教職員がアンテナを高く張り、些細な変化も見落としなく、日々子どもたちの対話やカウンセリング活動を通じて、いじめの無い学校づくりを推進していく。また、いじめ防止委員会を定期的に関催し、全教職員での情報共有と、同じ目線に立った見守り指導を行っていく。	○自分は人をいじめることはないが93%、友だちや下級生にやさしくしているのは100%であり、他の項目も高く、学校の取り組みが評価できる。また、いじめのない学校づくりの保護者の回答も96%であり、学校の取り組みを評価している。課題があれば、児童に寄り添い教職員が共通理解を図り、家庭との連携を常に図りながら取り組んでもらいたい。
	(3)自尊感情の育成	1. 大湊シートの「自尊感情」について、次の項目で肯定的評価85%以上 ①自分にはいいところがある ②自分のことがすきだ ③自信を持って、いろいろなことができる	①「自分にはいいところがある。」の項目で、6月期75.9%、12月期69.0% ②「自分のことがすきだ」の項目で、6月期65.5%、12月期58.6% ③「自信を持って、いろいろなことができる。」の項目で6月期79.3%、12月期69.0%と大きく落ち込んだ。他の人から評価されることや、必要とされていることを自覚し自己肯定感の醸成を図ったが、十分な成果とならなかった。	C	自己表現を苦手とする児童や人とのコミュニケーションに苦勞している児童が自尊感情の低い傾向にあるため、できるだけ集団の中で評価される場面を作り出し、自己肯定感の醸成をはかりたい。また、児童と教員が触れ合う場を意図的に設定することも継続して行いたい。	○友だちは自分の言ったことを分かってくれる97%、友だちの言うことはよくわかるは100%で良い結果である。自分にはいいところがある。自分のことが好きだの結果はやや低い。学校全体で友だちの長所や努力や力を紹介しながら、自己肯定感を高めたり、みんなのために役に立っている自己有用感を培っていく活動に今後も取り組んでほしい。
	(4)人間関係づくり推進(児童・児童と教師)	1. Q-Uアンケート、前期調査より後期調査で学級満足群の児童増加5%と要支援群の児童数0人 2. 大湊シートの「先生」について、次の項目で肯定的評価90%以上 ①先生はあなたのがんばりを認めてくれる ②先生と仲良くできている。 ③先生はみんなと平等に接してくれる。	1. Q-Uアンケートの推移は学級ごとにかわがるが、「学級満群の児童」の割合はやや装荷傾向にある。要支援群の児童は12月期に2名出現したが、該当児童には個人的なカウンセリングを行い支援をしている。2.①「がんばりを認めてくれる」6月期100%、12月期96.6% ②「先生と仲良くできている」6月期96.6%、12月期89.72% ③「平等に接してくれる」6月期93.1%、12月期89.7%で、昨年度より改善傾向にある。ほめる指導を継続していること成果である。	B	Q-Uアンケートや児童アンケートの結果について、一人ひとりの回答状況を確認し、日々の学級での様子に注意しながら、必要に応じて個人面談を実施している。教員との人間関係で大きな要因となるのが分かる授業づくりであり、この項目では児童アンケートの結果は昨年より10ポイント向上している。生徒指導の要となる、教員との人間関係づくりは今後も全力で推進していく。	○1学期よりやや低い数値になったが、先生に気軽に自分の思いや考えを話せるは約90%であり、1学期より高い。学習活動を含め、学校生活全般の中で肯定的評価を児童に返ししながら、児童理解を深めていくことが大切である。
家庭・地域・学校の連携	(1)保幼小連携の推進	1. 支援引継ぎシート等を通して、配慮の必要な児童の確実な引継ぎ100%とする。	1.校区に保育所が無くなって、児童の交流はできなくなったが、教職員の交流研修は2回実施できた。年度末の新入児の引継ぎもできている。	B	支援引継ぎシート等を通して、配慮の必要な児童の確実な引継ぎを行い、中学校ブロック全体での教職員研修も継続して行く。	○香南中学校ブロックでの連絡会を今後も継続し、保育から小学校、小学校から中学校への円滑な移行ができるよう、今後も取り組んでほしい。特にそれぞれ保育・小学校・中学校の課題が明確になり、解決のための方策を共有していくことが大切である。そのための研修・交流を工夫してほしい。
	(2)防災教育の推進	1. 大湊シート・保護者「学校評価アンケート」の防災に関する項目で、肯定的評価90%以上。	1.児童アンケートの防災に関する項目の肯定的評価は、6月期100%、12月期99.3%。保護者アンケートの肯定的評価100%と防災教育を推進してきた成果が表れている。	A	防災訓練や避難訓練は形骸化しないよう、その実施方法について常に修正を加えながら、とっさの場面でもよいように対応していくのが研修を深める。また、保護者への啓発活動は継続して行く。	○児童や保護者の防災教育の回答はほとんど100%と高く、学校防災教育活動が充実している。また、南国市と連携し、防災参観日でできたことは成果が上がった。今後も地域を巻き込んだ防災教育に取り組んでほしい。
	(3)地域との連携	1. 地域の方の授業参観及び児童アンケートをもとにした学校支援委員会との協議・懇談の実施。 2. 地域の行事への学校組織としての参加。	1.学校支援委員会とは定期的な協議・懇談が行えている。今後、コミュニティスクールとして運営協議会と連携した取組を進めたい。2.地域行事は新型コロナウイルスのためほぼ中止となっている。	B	コロナ禍での地域連携の在り方は、今後検討していく必要がある。できる限り、子どもたちが地域で活躍できる場を確保したい。	○学校支援委員会の開催、地域の人々と交流できるパワーアップ事業などが中止、また、地域行事も中止となり、児童が参加することができなかった。地域との連携を進めるとともに保護者の回答は100%であり、今後も児童は地域の人の関わりを大切に、地域に見守られながら生活していることを実感してもらいたい。
	(4)学校からの情報発信の充実	1. 学校だよりの充実、定期的な配布 2. 「学校評価アンケート」の情報発信に関する項目で、肯定的評価90%以上。	1.学校だよりの充実、定期的な配布し、児童の様子を知らせることが出来た。2.学校評価アンケートの情報発信に関する項目は、肯定的評価100%で、日常的な情報発信が家庭に届いていることが伺える。	A	学校だよりの充実、定期的な配布し、児童の様子を知らせたい。	○学校・学級からの情報発信について保護者の回答は100%と高い。特に学校便りや学校・家庭・地域との連携を深めていく最も重要な情報であり、児童の生き生きとした姿など、今後も内容の充実を図ってほしい。

(A : 目標を上回った B : ほぼ目標どおり C : 目標を達成できなかった)

学校関係者評価を踏まえての改善点
 1 ①肯定的評価による規範意識・自尊感情・学習意欲の向上。②自分の考えを表現する活動の充実。③個に応じた家庭学習の課題設定。④英語教育の研究と実践。日常的な英語環境の充実。
 2 ①いじめ・不登校の防止に向けた全校で見守り・支援体制の充実。②Q-Uアンケートで支援群にいる児童への全校体制での支援強化。③児童へのカウンセリングと肯定的評価活動の充実。
 3 ①中学校ブロックでの保育所と連携した研修実施。②防災教育の充実と教職員の危機管理能力の向上 ③地域と連携した学習活動の充実 ④情報発信の更なる充実と工夫。⑤児童と家庭との双方向での情報共有。